

# 常任・特別委員会の動き

## いずみ野線の延伸 交通システムは「鉄道」を選定

建設経済

建設経済常任委員会は、六月十一日に開催され、現模鉄道株式会社及び本市が地視察の後、議案三件、陳情二件を審査した。その結果、議案はすべて可決すべきもの、陳情は一件が趣旨了承、一件が趣旨不了承と決定した。また、①「いずみ野線延伸の実現に向けた検討会」における検討結果、②(仮称)湘南広域産業振興戦略(素案)③藤沢市有機質資源再生センターの運営状況等―以上三件について報告を受けた。

○「いずみ野線延伸の実現に向けた検討会」における検討結果について

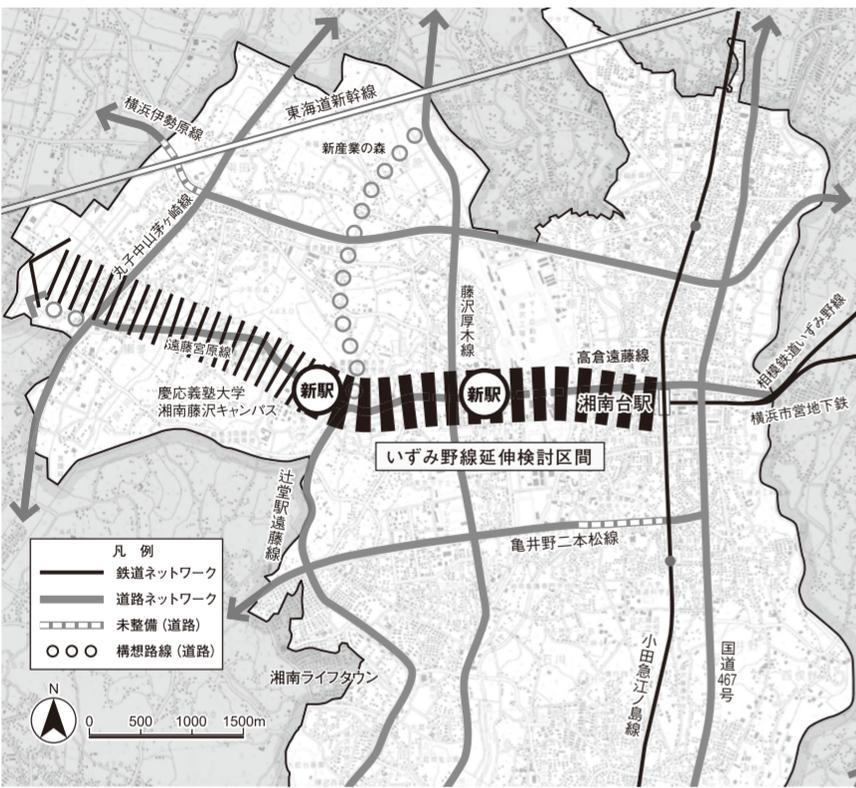
平成二十二年六月に、神奈川県等交通システムに必要な

奈川県、慶應義塾大学、湘要件との関係及び延伸のためには、湘南台駅から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近までの約三・三キロメートルに二駅を設置し、相模鉄道湘南台駅から引地川をくぐり、地上に出て高架での走行を考えている。運行計画は、定員を十両編成で千四百人、表定速度は時速約四十キロメートル、所要時間は五分、運行本数はピーク時に一時間当たり五本、そのときの輸送能力は七千人を想定している。

整備効果については、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近の駅から渋谷駅までの乗り換えがなくなり、所要時間も二十九分短縮され五十分となる。

事業採算性の検討においては、前提条件として、利用者数は約二万五千八百人と推計し、概算建設費は約四百三十六億円と試算している。整備手法は、都市鉄道利便増進事業の適用を想定し、

いずみ野線延伸計画 イメージ図



可との整合を図る必要性が生じる。これらの内容を総合的に判断した結果、単線の鉄道を選定した。

ルートや構造等については、湘南台駅から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近までの約三・三キロメートルに二駅を設置し、相模鉄道湘南台駅から引地川をくぐり、地上に出て高架での走行を考えている。運行計画は、定員を十両編成で千四百人、表定速度は時速約四十キロメートル、所要時間は五分、運行本数はピーク時に一時間当たり五本、そのときの輸送能力は七千人を想定している。

整備効果については、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近の駅から渋谷駅までの乗り換えがなくなり、所要時間も二十九分短縮され五十分となる。

## 公共施設の再整備を審査 ―藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会―

藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会は、六月八日に開催され、藤沢都心部再生及び公共施設の再整備について審査した。この日の委員会では、新庁舎建設の考え方について審査を行った。

新庁舎建設の敷地の面積は、現在本館、東館等が建っている約一万平方メートルであり、建てかえ対象建物には本館・東館・第一庁舎・第二庁舎・職員会館等、延べ床面積の合計は約一万三千三百平方メートルである。今後の庁内検討及び基本構想の策定において、市民利用のための多目的・交流スペースや、現庁舎の狭小部分の改善を考慮した規模を検討している。老朽化が進んでおり、耐久

新庁舎建設の方向性については、新館をそのまま使用していく方法と、新館機能も新庁舎に集約する方法の二通りの方法を想定している。前者は、新庁舎の配置を考慮することで将来の新館の建てかえ敷地を確保でき、仮庁舎の対応も第二庁舎等にとどまるが、新館の大規模修繕が必要となる。後者は、本庁舎機能をすべて集約することで利用しやすい庁舎となるが、建設費が高額となり、敷地全体に建物が増えることになる。この二つのメリットとデメリットを総合的に判断すると、前者の新館をそのまま使用し新庁舎を建設する計画が妥当であると考えている。

## 行政改革等特別委員会

行政改革等特別委員会は、五月二十一日に開催され、これまでの調査・審査の報告書を作成し、委員会としての審査を終了した。

## 水防訓練を視察 ―災害対策特別委員会―

災害対策等特別委員会は、五月二十五日と七月七日に開催された。五月二十五日の委員会では、大清水浄化センターにおいて実施された水防訓練を視察した。

この訓練は、集中豪雨及び台風などに備え、発災時に迅速かつ確に対応するための訓練を行い、水防技

術の向上と水防態勢の整備を図ることを目的として実施され、市職員、消防団員、建設業協会会員等合計三百七十三人が参加した。

「梅雨前線が日本の太平洋沿岸付近に停滞し、東に移動してきた低気圧がこの梅雨前線を刺激して、前夜から降りだした雨は一段と強くなり、低地での浸水が

この訓練は、地震発生時の津波対策のため住民及び海水浴客の避難行動に焦点を当て、職員の非常参集・市民の津波避難活動・海水浴客などの避難誘導の実践的な訓練を通して、津波の被害を最小限にすることを目的として実施された。

「房総から相模湾沖を震源としたマグニチュード八・五の大地震が発生し、それに伴い気象庁は相模湾・三浦半島に大津波警報を発令、津波の第一波は十分後に本市に到達する」という想定のもとに、①津波情報伝達訓練②災害対策本部・

この訓練は、集中豪雨及び台風などに備え、発災時に迅速かつ確に対応するための訓練を行い、水防技

午後二時の現地指揮本部設置訓練から始まり、低地浸水防訓練における土のう作成訓練では、所定の土砂集積所で約二千袋の土のうを作成した。

内水排除訓練では、排水ポンプ操作訓練と照明用装置操作訓練が行われ、河川氾濫防止訓練では、消防団員や建設業協会会員らが参加し、決壊の危険があるとの想定のもと堰堤に栗石袋及び土のうを設置する訓練を実施した。人命救出訓練では、消防団員らによりアルミボートを組み立てるなど、各訓練とも指揮本部の指示のもと進行した。



水防訓練におけるアルミボート組立訓練=大清水浄化センター